■山田の凱旋門

この凱旋門は明治37・38年(1904・1905)の日露戦争に、当時の山田村から従軍した人たちが無事に帰還したことを祝うために、明治39年3月に山田村兵事会が建設したものです。『山田村郷土誌』によれば、山田村の従軍者は、陸軍88名・海軍25名の計113名でした。そのうち17名が戦死しています。

山田の凱旋門 全景

石造りの凱旋門は、鹿児島が誇るアーチ式の石橋技術を応用したもので、全国的に大変珍しい貴重な文化財です。

使用石材は凝灰岩で、上名の池平から切り出したといいます。石工は細山田ケサグマという人だったそうです。

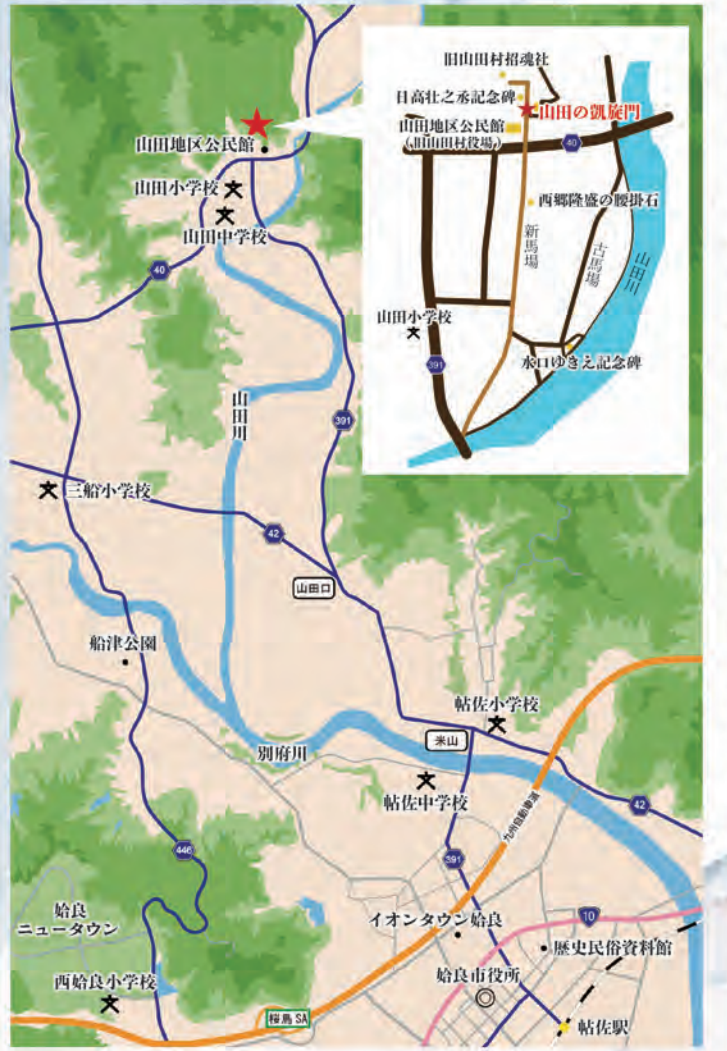
『鹿児島市史』によれば、「県は熊本・宮崎・沖縄三県と連合して鹿児島のいづろ通広馬場角に凱旋門を建設し、1月に竣工、3月12日より15日にかけて部隊の凱旋を迎えた」とあります。山田村の従軍者たちは、新馬場を行進して凱旋門をくぐり、地元民から祝福されたと考えられます。

■渋川凱旋紀念門（静岡県浜松市北区引佐町渋川）

現存する日露戦争の凱旋門は、山田の凱旋門とこの門の2例です。柱間約3㍍、高さ約3.2㍍のレンガ造りのアーチ門で、明治39年3月に六所神社の入口に建てられました。

柱には日露戦争の従軍者68名と日清戦争従軍者16名の氏名、門建設の寄付人名と金額が刻まれています。日露戦争の終結後、全国各地で記念祝賀会や凱旋式が盛大に行われました。

レンガ造りの凱旋紀念門



【所在地】姶良市下名1187番地　山田地区公民館東側

交通・アクセス

- ●JR帖佐駅から車で　約15分
- ●鹿児島市街地から車で（国道10号経由）　約50分
- ●鹿児島空港から車で（県道40号経由）　約30分

姶良市の指定文化財については、ホームページをご覧ください。

姶良市教育委員会

鹿児島県姶良市宮島町25番地

☎0995-66-3752

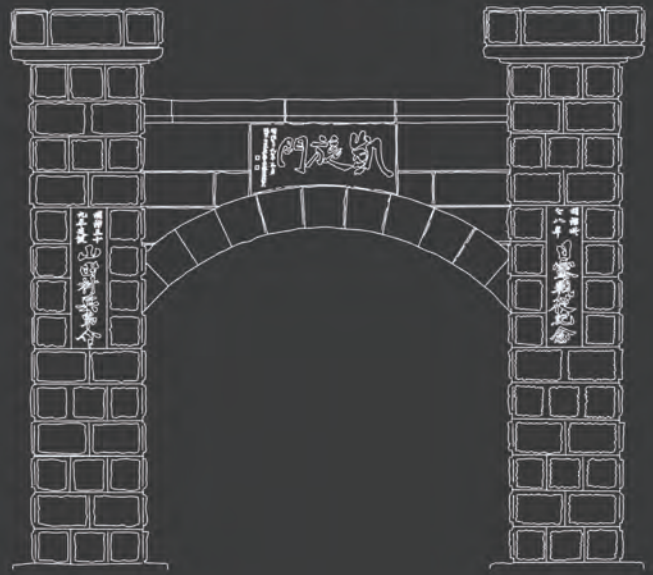
文化財愛護シンボルマーク

国登録有形文化財

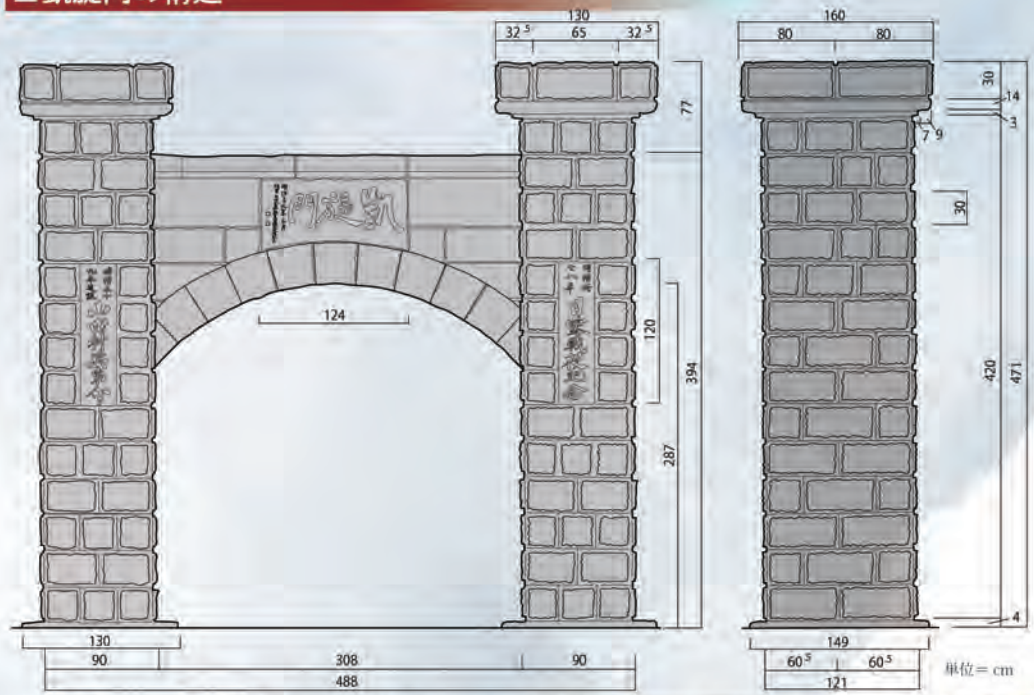
山田の凱旋門

Nationally registered tangible cultural property

Yamada triumphal arch



■凱旋門の構造



高さ 4.71㍍、幅 4.88㍍で、太い柱を両側に立て、間をアーチでつなぐ構造です。柱より一回り大きい柱頭が、力強さを表現しています。アーチ部の中央には、タテ 60cm、ヨコ 124cmの石がはめ込まれており、「凱旋門」の文字が刻まれています。文字を揮毫した大久保利貞は大久保利通の従兄弟で、霧島神宮の宮司を務めた人物です。

左

明治三十九年三月
陸軍中将正五位
勲二等功四級
大久保利貞
□□（落款）

右

■旧山田村招魂社と戦役記念碑

凱旋門後方の階段を登りきった山田麓を一望できる高台には、旧山田村の招魂社と 5 基の戦役記念碑が建てられています。記念碑は、東側の列が戦亡招魂碑（西南戦争）と西南役記念碑、西側の列が大東亜戦争慰霊碑と忠魂碑（日清・日露戦争）および記念碑です。

旧山田村の招魂社は、大正 13 年 (1924) 11 月に建設されたもので、「記念碑」にその経緯が記載されています。

戦役記念碑

■日露戦争〔明治 37 年 (1904) 2 月～明治 38 年 (1905) 8 月〕

明治 27 ～ 28 年(1894 ~ 1895)の日清戦争の後、中国東北部(満州)や朝鮮における権益をめぐり、日本とロシアの対立は深まりました。

明治 37 年 2 月、ついに日本とロシアは国交を断絶し、日露戦争が始まりました。日本軍は、兵力・武器に勝るロシア軍に各所で苦戦し、数万の死傷者を出しながら、旅順や奉天を占領しました。また、5 月の日本海海戦では東郷平八郎司令長官が率いる連合艦隊が、ロシアのバルチック艦隊を壊滅させ、戦いを有利に進めました。

しかし、日本軍の損失は大きく、国の軍事力と経済力は、戦争を継続するには限界に達していました。また、ロシアも社会主義運動が盛んになり、国内の政治が不安定な状態でした。

日本は、アメリカ合衆国のセオドア・ルーズベルト大統領に講和の斡旋を依頼し、明治 38 年 8 月、アメリカ合衆国のポーツマスで日露講和会議が開かれ、日本全権・小村寿太郎とロシア全権・ウィッテが条約に調印し、戦争は終結しました。この条約により、ロシアは満州や朝鮮から撤兵し、日本は満州における権益を獲得しましたが、賠償金は得られませんでした。国家の総力戦として多大な犠牲を払い、戦費の重い負担に耐えてきた国民は、講和条約で賠償金が獲得できなかったことに怒り、東京日比谷公園での講和反対国民大会が暴動化しました（日比谷焼き打ち事件）。

■日高壮之丞記念碑

凱旋門の左手奥に、海軍大将を務めた日高壮之丞の記念碑があります。嘉永元年 (1849) に生まれた壮之丞の母は山田村下名の森家出身です。

壮之丞は明治 35 年 (1902) に常備艦隊司令長官となりましたが、翌年には舞鶴鎮守府司令長官に転任させられました。この更迭人事は海軍大臣山本権兵衛によるもので、後任に東郷平八郎を起用し連合艦隊を組織しました。転任を告げられた壮之丞は、無念さのあまり腰の短剣を抜き、山本権兵衛に詰め寄ったという逸話が残されています。

日高壮之丞記念碑

■いづろ通の凱旋門

いづろ通広馬場の凱旋門には、下伊敷に置かれていた歩兵第 45 連隊が凱旋しました。

いづろ通の凱旋門は、正面が 1 連アーチ、側面は 2 連アーチで、支柱が 6 本ありました。屋根には 6 本の尖塔が立つ、木造漆喰塗の構造で、高さ 13 m・幅約 9 m と推測されます。アーチ部に書かれた「祝凱旋」の大きな文字が兵士達を迎えました。この凱旋門は、昭和 20 年 (1945) の空襲で焼失したといわれています。

いづろ通の凱旋門
『征露紀念薩隅日軍人名誉肖像録』昭和 39 年